

ハウスミカンの肥料要素吸収量の季節的变化

原田豊・井上宏*

1. 香川県坂出市において、温州ミカン園(宮川早生,19年生)のハウスミカン樹(被覆樹)と露地ミカン樹(無被覆樹)を供試し、新梢および果実の発育にともなう、1樹あたりの $N, P_2O_5, K_2O, CaO, MgO$ の1か月間の吸収量の季節的变化を、1979年1月から12月まで調査した。

2. ハウスミカン樹の地上部の生長周期は露地ミカン樹の場合と著しく異なった。加温開始後約20日の12月終りから1月始めにかけて発芽した春枝は1月~2月に伸長した。1月下旬~2月上旬に開花し、2月~6月にわたって果実は発育し、6月下旬~7月下旬に成熟した。果実の収穫が終了し、被覆したビニールを除去した後、多数の夏枝が発生伸長した。

3. 新梢と果実の生体重および乾物重の増加量の季節的变化をみると、露地ミカン樹では4月~6月に春枝の発育による増加がみられ、6月から10月にわたって、果実の肥大による大きな増加がみられたのに対して、ハウスミカン樹では1月~2月に春枝の発生による増加がわずかにみられ、その後2月から7月にわたって果実の発育による大きな増加が、つづいて、8月~9月には夏枝の伸長による増加がみられた。

4. ハウスミカン樹、露地ミカン樹ともに、 N, P, K の葉中含有率は、生育の初期に高く、季節が進むにつれて低下し、後半は安定する傾向を示した。 Ca と Mg はこれらと反対に、生育初期に低く、季節が進むにつれて高くなり、後半安定する傾向を示した。

5. ハウスミカン樹は露地ミカン樹に対して、1樹あたりの着果量が多く、しかも発芽後の生育期間が長いため、新梢と果実による年間吸収量は露地ミカン樹に対して、 $N:1.56$ 倍、 $P_2O_5:1.76$ 倍、 $K_2O:2.37$ 倍、 $CaO:0.86$ 倍、 $MgO:1.19$ 倍となり、5要素のうちでも K_2O がもっとも多く、ついで P_2O_5 および N が多かった。なお、ハウスミカン樹では、果実収穫後の8月~9月に多数発生した夏枝により、 N を中心としてかなりの肥料要素が吸収された。